

1990年
2月
3月

これは今から25年前を記憶や資料をたよりにひも解いてみようとする企画です

第1回全国勤労者ふるさと交流会兵庫県大会

O-JAPAN 90/3月号にこの年から始まった労働省、兵庫県主催の全国勤労者ふるさと交流会兵庫県大会について福田良雄さんのレポートが掲載されていたので、それを紹介する。

余暇の時代と言われる今日、働く者の労働時間の短縮に伴って増大する余暇を有意義に活用して次代を担う若い勤労者と中高年勤労者が故郷を基盤としたふれあいと交流を相互に深めることにより、心身のリフレッシュや自己啓発を通じて、勤労意欲を高め、もって21世紀に備えて、活力と創造性に満ちた豊かな勤労者生活実現に寄与することを目的とし、一昨年の労働基準法改正を景気に、労働者の新規事業として「第1回全国勤労者ふるさと交流会兵庫県大会～ふれあい淡路オリエンテーリング大会～」が2月11日(日)参加33都道府県より282名の参加者を集め、盛大に淡路島の洲本市で開催された。

前日の10日には洲本温泉の「ホテル・ニューアワジ」を会場にして多くの参加者や来賓を迎え、盛大に開会式ならびに交流会が開催されました。

参加33都道府県名のプラカードを先頭に選手代表が拍手とともに会場へ入場。挨拶など式典のあとは立食パーティに移り、交流が始まる中、OLP兵庫の芝氏を中心に石井・出田謙の2人が2か所に分かれて、各々Aクラスのスタート順の抽選を開始。氏名が貼りだされコールされるたびごとに喚声が上がった。

その日はユースホステル、民宿、ホテル、ペンションに分かれて宿泊。

明け方、激しい雨に大半の方が目を覚まされたのではないのでしょうか? 天気予報で予告されたとおり夜半の低気圧の通過にともなって、春の嵐となった。島へ向かう高速艇も欠航する始末。

参加者はトリムスーツやトレーナーなどの上に雨合羽やビニールシートなどの雨対策をしてコースに挑戦する。

コースは洲本市を見下ろす、国立公園区域内の「洲本城」のある三熊山を中心とする地域で、ほぼ山頂からのスタート。9クラス・7コースに同じ県が重ならないようにスタート時刻をずらして、2分間隔で次々とやみかけたとはいえ、時折激しく降る雨の中をぬかるんだ山道に足を取られながら、スタートしていった。

注目のH20Aは全日本大会10連覇の村越真(29歳)が、D20Aに参加の妻・久子氏とともに優勝。H30Aでは兵庫の西田伸一、H40Aは同じく兵庫の谷口直夫、また、D35Aには東京の酒井か代子。この結果団体戦は兵庫がH20A7位の藤井範久を加えて優勝。続いて東京がH20A3位の鈴木雄輔、H35A5位の鈴木規弘を加えて3位。さらにH20A2位の稲葉英雄、D35A2位の渡辺千津子の活躍で愛知が3位となった。

大半の選手がゴールするころには青空も見えた。14時ごろゴールの県立淡路勤労センターにて閉会式。各3位までの入賞者は壇上にあがり、大きな労働大臣の賞状が副賞とともに手渡された。

第2回は本年の11月ごろ北隣の津名町で開催が予定されていることが発表、再会の呼びかけがあり、大過なく2日間にわたる行事の幕を下ろした。

全日本大会記念碑を建立

大会運営委員長の森田輝雄さんからO-JAPAN90/3月号に寄せられたものです。

平成元年度の全日本大会もあと数日に迫りました。

大会終了の翌日からゴルフ場建設のためブルドーザーが入ります。たった1日の大会でグレンデの大部分が消えてしまうのはとても残念です。我々の努力の足跡をなにか形に残せないかという話が持ち上がりました。現在石川県OL協会副会長で鉄工所経営の東英一氏(H60A)から「記念碑を建てよう。経費は全部負担しますから」との申し出がありました。

建立場所は大会グレンデのほぼ中央にある「一口生水」の小公園の片隅です。地元や地主の方も賛成していただいたので、大会前日(3月24日)午後5時過ぎから除幕式を計画しています。全国協議会終了後、除幕式会場へのマイクロバスを運行しますのでご参加ください。

時の話題

2月2日 南アフリカ大統領がアフリカ民族会議の合法化を発表、同時にネルソン・マンデラ氏の釈放を公約

2月15日 ラトビアがソ連からの独立を宣言。3月11日リトアニア 3月30日エストニアの同様に独立宣言。

3月1日 麒麟麦酒がキリン一番搾り生ビールを発売。アサヒドライに対抗。

3月10日 京葉線「東京一蘇我」間全線開通。

3月15日 ミハイル・ゴルバチョフがソ連初代大統領に就任。同日ソ連はリトアニアの独立宣言は無効であると発表。